

# パスワードの 上手な管理法



数か月ぶりにネットで振り込みをしようとして慌てた。「パスワード、何だっけ!」。銀行のキャッシュカードやネットのサービス利用に不可欠な暗証番号とパスワード。誕生日や電話番号は危険だし、かといって複雑過ぎると覚えられない。上手な管理方法はないだろうか。(藤城 直浩)

## ご用心! ネット犯罪急増

インターネットで取引するネット銀行の普及は目覚ましい。特にネット専門銀行の口座数は増加の一途で、2000年に開業したイーバンク銀行の口座数は、03年3月で約48万口座だったのが、今年10月には3倍以上の175万口座になった。147万口座のジャパネット銀行も3年前の約2倍に増えた。

### 「使い捨て」や顔写真・イラスト採用も

こうした普及に伴ってネットを利用した犯罪も増加。警察庁によると、コンピュータやネットを利用したサイバー犯罪の今年上半期の検挙数は、前年同期(1612件)から11・8%増えて18万3千件に達した。パスワードに関する犯罪も増加している。「利用者のパスワード設定・管理の甘さにつけ込んだもの」が115件で最も多かった。警察庁はパスワードを簡単に推定されないように設定したパスワードにするなど、パスワードの管理の甘さにつけ込んだものが増えている。三井住友銀行はネット利用の希望者を対象に、使い捨てのパスワードを表示する特殊な機械を貸し出す「ワンタイムパスワード」(月額105円)を2月から始めた。11月現在、約3万人が利用している。ログインする際は第一暗証を入力した後、さらに機械に表示された6ケタの数字を入力する。数字は1分ごとに変わり、一度使ったパスワードは無効になるため、万一、取引を盗み見られても被害に遭いにくいという仕掛け。ジャパネット銀行でも同様のシステムを採用している。

### 安全なパスワード作りのコツ

情報サイト「オールアバウト」の「Windowsの使い方」ガイドの酒井雄二郎さんは、パスワード作りのコツを「大文字、小文字、数字、記号をランダムに組み合わせる7文字以上にすべき」という。しかし、凝り過ぎると忘れる恐れがあるので、「家庭のパソコンでは、①忘れにくい②入力しやすい③他人が類推しにくい」の3点がポイント」と話す。生年月日やペットの名前、「abcd」、「password」などは危険な代表例。「安全なパスワード作りは次の3つの方法がお勧め」という。

①語呂合わせ法=簡単なものなら「ご苦労さん」→「5963」、「良い肉」→「4129」。複雑なものは「さんざんサンタさん」→「3z a n 3 t a 3」や「アイドルになるう」→「i \$ 2760」など。  
②連想法=日本→富士山→標高→「3776」など。  
③組み合わせ法=娘の誕生日が9月15日で自分が11月23日な

ら「Sep15Nov23」とすれば一ひねりされ、強いパスワードに。酒井さん自身は「連想法」を利用。システム手帳にパスワードの最初のキーワードだけ書き、その手帳を厳重に管理しているという。「管理法で一番いけないのがパソコンの回りにパスワードを書いた紙を張っておくこと」(酒井さん)。笑い話のようにだが、実際にそうしている人は結構多いそうだ。



三井住友銀行が採用している「ワンタイムパスワード」は、6ケタの数字が1分ごとに変わる使い捨て。



「二ーモニックガード」のパスワードは思い出、忘れようのない友人の顔が情報を守る

「二ーモニックガード」のパスワードは思い出、忘れようのない友人の顔が情報を守る。ログインする際は第一暗証を入力した後、さらに機械に表示された6ケタの数字を入力する。数字は1分ごとに変わり、一度使ったパスワードは無効になるため、万一、取引を盗み見られても被害に遭いにくいという仕掛け。ジャパネット銀行でも同様のシステムを採用している。

確かに、たくさん英数字を組み合わせた長いパスワードは安全だが、覚えるのが大変。そこで、最近ではユニークなパスワード管理法が現れた。「二ーモニックセキュリティ」(大阪市)が開発した「二ーモニックガード」のパスワードは写真やイラストを採用している。生年月日やペットの名前、「abcd」、「password」などは危険な代表例。「安全なパスワード作りは次の3つの方法がお勧め」という。